

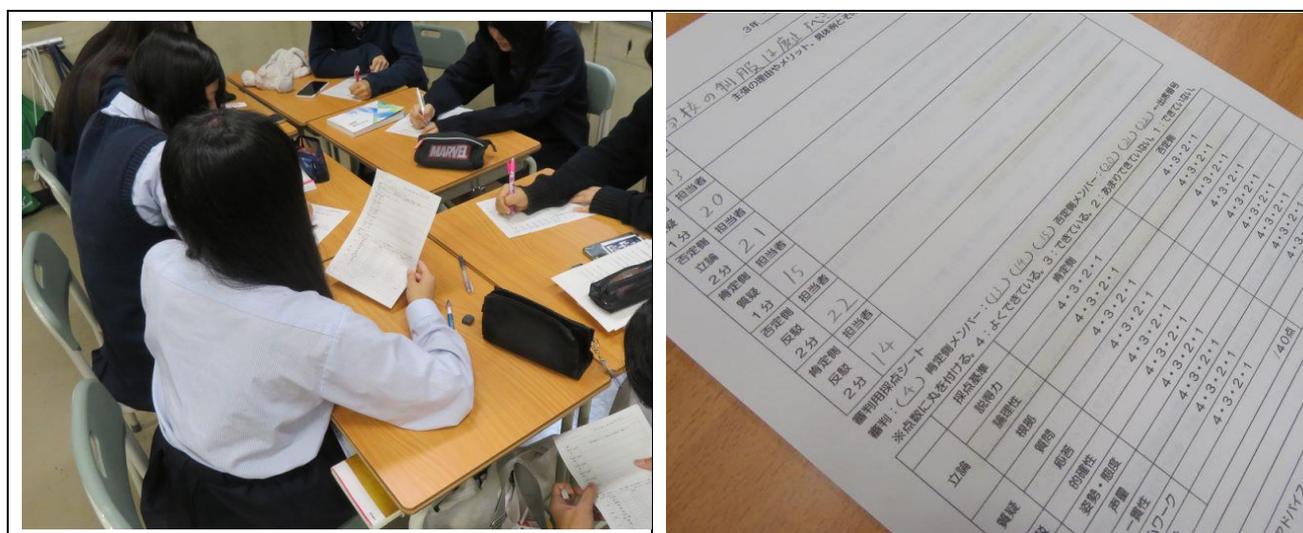
## 学校の様子（3年生 現代文B）

今回は、3年生の現代文Bの授業を紹介します。

9月に学んだ評論を発展させて、ディベートに取り組みました。クラスを6班に分け、肯定側3人と否定側3人、そして審判に分かれます。肯定側・否定側ともに、立論・質疑・反駁と役割を決め、論題に沿って作戦会議を行います。

「客観的・批判的・多角的な視点を身に付け、論理的思考力を高めること」や「自分の考えを筋道立て、人前で堂々と主張できるようになること」などをねらい、「相手を言い負かすのではなく、議論を通じて相手や審判を説得することが大切」と説明を受けて、スタートします。

今回の論題は、「学校の制服は廃止すべきである」で、身近な論題ではあるものの、自分が普段思い描いている側と逆の立場で立論をする場合もあり、限られた時間で肯定もしくは否定の立論をする必要があります。生徒たちは、それぞれ考えを披露し、立論を進めていました。



立論の時間が終了すると、生徒たちは思い思いの考えを相手チームに投げかけます。例えば、家庭の費用負担のこと、個性のこと、一体感についてなど様々な視点からやり取りを行っていました。

その中でも、審判の係りの生徒は、立論・質疑・反駁と様々な視点で評価する必要があり、非常に大変な役回りです。ある審判の生徒は、肯定側・否定側ともに話すことを聞き漏らすまいと真剣に聞いており、その姿に感心させられました。